

明治19年（1886）新潟県高田市に生る。39年東京帝國大学農業部附属実科を卒業後、山梨県・長野県を経て大正4年帝室林野管理局に勤務。同13年東京市技師となり帝都震災復興事業に参画し、復興局出張所の区画整理課長の重責を果たした。昭和5年（1930）同事業完成と共に東京市役所都市計画課の整地掛長となるや、当時東京近郊の無秩序な宅地化を防止するため土地区画整理組合の指導育成に傾注した。昭和6年には氏の主唱により区画整理協会全国連合会が発足し、その機關紙「區劃整理」が発刊され名古屋と東京の両市が交互に編集に当たり、今日の「区画整理」の前身となった。又氏は市の主腦部に対し区画整理が都市計画の中心的役割を担うべきものであることを力説し、その結果当時としては他に例の少ない「東京市土地区画整理助成規程」の制定に成功した。これが大いに役立って東京市新市域の組合事業は空前絶後の盛況を呈するに至った。世は次第に戦時色濃厚となるや、旧都市計画法13条による市施行を発案し、新宿駅西口・渋谷・池袋などを調査企画し、都市計画決定を見たが、新宿駅西口の一部を除いて遂に陽の目を見ず戦災復興に委ねる結果になったものの、その先見の明には感服すべきものがある。昭和15年（1940）静岡市に

大火が発生、氏が選ばれて復興局長となるや東京市はもとより大阪・名古屋両市をはじめ各方面から氏の人徳を慕い応援の声が沛然として起り、流石の難事業もほぼ完成の域に達したところで職を辞され、そのうえ戦火で再び灰燼に帰したことは残念である。戦後昭和21年（1946）

6) 戦災復興院に招かれ斯界推進に意見具申の機を得られたのを始め、東京農大の講師をつとめるなど後進の指導に専念し、昭和38年（1963）喜寿を機として都市計画協会内に「土地区画整理阿部功賞」の基金を設け、広く在野の功労者を表彰し度い意志を実現された。昭和39年、勲四等旭日小綬章叙勲の栄に浴した。

他方、余技として書道・俳句・弓道をこよなく愛し、就中俳句については帰去来と号し、各地の旅行や吟行で残された名句は数知れず、昭和47年（1972）逝去と共に勲三等瑞宝章に昇叙の栄に浴されたのもむべなるかの感を深くする。享年86才。

